



学校再開後に懸念される「教育」の再来

ハンドルは教師が固定
遅延を挽回するため、押しまくる

疲弊 教師

“丸暗記”
頭は回っていない

自走性を高めないまま、教師が生徒を「動かす」

Society 3.0 の教育 vs 4.0 の教育

<p>3.0 (工業社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定型作業に需要 ・ 人も規格品が有利 ・ 生徒は学校に従属 ・ 興味関心を封印 ・ 全員一律 (40名クラス) ・ 管理強制 ・ 人や社会から遮断 ・ 学校で完結可能 ・ ICTは異物 (忌避) 	<p>4.0 (情報社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 価値創造に需要 ・ 尖った人物が有利 ・ 学校が個性を開花 ・ 興味関心を尊重 ・ 学びの個別最適化 ・ 挑戦に伴走 ・ 人や社会と繋げる ・ 学校で完結不可能 ・ ICTは不可分 (歓迎)
--	--

教育改革で積み上げてきた「学び」の実現

ハンドルは生徒が握る
燃料は、生徒一人ひとりの **知的欲求**

“探究”
夢中になって考える

“知りたい”
“学びたい”
“実現したい”

自走性を高める支援をしたら、生徒が「動く」

土曜授業実施・夏休み短縮・
9月入学による帳消しを画策

履修主義に基づく学校運営
到達目標を達成するのが困難なため、実際に多くの時間を必要とするほか、学校や教師には「**教室に存在した時間で学習成果を認定する、形式要件による免責**」を願望する意識が強くなる。

管理強化
他責に伴う被害を未然に回避するために外ヅラを良くする必要性から、また無念から、生徒の支配に走る危険性が高くなる。

今日「助け合い」に対するハードルは劇的に低下

学びの主体性 vs 学習継続計画の安定性

<p>継続性「低」(教え込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が生徒に持たせた問いを起点に、 ・ 教師が生徒に教えたり、調べさせたりして、 ・ 教師が生徒に考えさせ、 ・ 正解に誘導する。 ・ 教師のエネルギーで、教師が与える。 ・ 教師に依存 (教師が必要) ・ 授業時間だけ & 教室だけ 	<p>継続性「高」(探究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の気づきや素朴な疑問を起点に、 ・ 生徒が「知りたい!」と自ら情報を収集して、 ・ 生徒が自ら整理・分析し、意味を感じとる。 ・ 生徒のエネルギー・欲求で、生徒が自ら掴み取る。 ・ 教師から自立 & 自走 ・ いつでも & どこでも
--	--

修得主義に基づく学校運営

到達目標を達成できる可能性が高いので、学習成果を「教室に存在」した時間で計る必要性は低い

学習継続計画に必要な視点

(オンライン環境のフル活用は当然の前提)

生徒の自走性を高めるためには個々の「知りたい」を起点にした学びを提供する必要性が高い (探究)

“弱い生徒”が「学び」から脱落しないよう家庭や地域とともに「学びの土壌」を肥沃化させる (地域連携)

生徒は「自分らしく」社会に参加する経験

次世代育成に対する大人の意識・態度

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の関心は「今までの自分」 ↑ 変わる意欲が枯渇 ・ 保護者や地域は「学校に押しつけ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の念願は「生徒や社会の未来」 ↑ 変わる意欲が充足 ・ 保護者や地域は「学校と助けあい」
---	---